

第7章 トップリーダーと 政治体制-毛沢東・鄧小平

川村 琢水

1 トップリーダーの役割

▶ 中国政治は一人のトップリーダーがパワーを持つ

制度、組織、法の欠如

それぞれが個人の独裁的統治を受け入れている

役割の大きさにより、政治変動をもたらす

▶ 政治変動の要因

制度、組織、法制の欠如と機能不全

トップリーダーの理念、志向、路線、政策

2 毛沢東思想と毛沢東型社会主義

- ▶ 唯一の正統イデオロギー

大会の党規約「中国共産党はマルクス主義の理論と中国革命の実践を統一した思想である毛沢東思想をすべての活動の指針とする」

- ▶ 毛沢東思想とはなにか

論ずる人、時期によって変化する

毛沢東一人の思想であるかどうかも疑わしい

2 毛沢東思想と毛沢東型社会主義

▶ 毛沢東型社会主義

1. 「プロレタリア独裁下の継続革命」という文化大革命のイデオロギー
2. 社会主義において生産力を引き上げるために生産関係の変更が最大の推進力になると考える理論
3. 「乏しきを憂えず、等しからざるを憂う」という「均」の観念

2 毛沢東思想と毛沢東型社会主義

▶ 毛沢東主義を生み出したもの

毛個人の資質

中国を取り囲んだきびしい状況

「貧困であれば革命しようと思う。知識の少ないことはよくないが、白い紙には文章がたくさん書ける」 毛沢東

3 毛沢東型リーダーシップと鄧小平型 リーダーシップ

▶ 毛のリーダーシップの確立過程

滅亡の瀬戸際にあった紅軍を救い軍のナンバーワンに
日中戦争時に中国共産党政治局の主席に
党と軍、国家の権力を一心に集めた

▶ 毛沢東の専断

リーダーシップの変化 専断→個人独裁→個人崇拜
中央のすべての掌握に成功

3 毛沢東型リーダーシップと鄧小平型 リーダーシップ

- ▶ 独裁から個人崇拜へ

反右派闘争を一人で決断、プロセスを完全支配

新聞の宣伝のやり方まで指図

- ▶ 毛沢東の神格化

毛を神格化し、林彪は地位を引き上げた

林彪曰く「毛主席の話は一字一句真理で、一言が万言に当たる」

3 毛沢東型リーダーシップと鄧小平型 リーダーシップ

▶ 毛沢東の政治運営-介入

毛が果たした役割 提唱者、優先順位の確認、首尾一貫性の付与、規定政策や方向の歪曲・修正・介入など

▶ カリスマから皇帝へ

リーダーシップは時期よって変化

50年代半ば 「組織内の政策決定者」

50年代末～60年代前半 説得能力と権力を喪失

60年代後半 「組織を超えた扇動者」

70年代 権力闘争で毛の権威だけが一人歩き

3 毛沢東型リーダーシップと鄧小平型リーダーシップ

▶ 鄧小平の復活と集権のプロセス

80年代から20年間、最高指導者として、「改革・開放の総設計師」として中国の成長と変化を指導した

78年の11期3中全会からリーダーシップは確定し始める

▶ ストロングマン鄧小平を生み出したもの

13回党大会で趙紫陽総書記が「中央から退いてからも鄧小平が中国改革の総設計師、最高の意思決定者であり、今後も重大な問題は鄧に決定してもらわなければならない」と決議

毛型の個人独裁ではなく権威主義体制の柱石たるストロングマン

3 毛沢東型リーダーシップと鄧小平型 リーダーシップ

▶ 鄧小平のリーダーシップの特徴

「白猫でも黒猫でもよい。鼠をとるのがいい猫だ」

「いいと思ったら一、二年やってみて、それで大丈夫なら自由にやらせる。間違ったと思えば直せばいい。やめればいいんだ。すぐにやめてもいいし、ゆっくりやめてもいい。」

4 リーダーシップと政治体制

▶ 全体主義体制をとった毛沢東時代

政治体制の特徴

第一、あらゆる領域で共産党による排他的かつ一元的な支配が追求

第二、政治権力が一点に集中、議行合一と中央集権の体制が貫かれた（強固な集権制）

第三、大躍進運動や文化大革命で示された、上からの教化と動員の政治。民主制での国民の政治参加とは対極をなす。

第四、毛沢東という組織を超えたカリスマ的権威の存在

4 リーダーシップと政治体制

▶ 全体主義体制をとった毛沢東時代

危機管理を自らにとっての最重要の課題だと認識し、それに見合う体制を作り上げた。

伝統をひきずった全体主義的な政治体制

4 リーダーシップと政治体制

▶ 鄧小平時代-権威主義体制

80年代の政治体制は、危機管理から、安定の維持と経済発展の促進が主要な課題

毛沢東時代との違い

イデオロギーと動員の政治の回避

脱イデオロギー的価値を国民に結集

4 リーダーシップと政治体制

▶ 鄧小平時代-権威主義体制

「いま外国では新権威主義という新しいスローガンがある。それは**発展途上国で経済発展を行うには、一人の意志の強い人間が指導しなければならない**というものである。私はまさにそのことを言っているのであり、別の言い方をしてるのにすぎない」 鄧小平